

愛知県全体の傾向を踏まえた、県としての改善の指針

改善の指針 1

読んだり聞いたりしたことを表現する活動や、学習内容と実生活の関連を重視した指導を充実させる。

小学校における「書く習慣を付ける授業」については、年々その割合は増加傾向にあるが、全国と比較すると、小・中ともに、まだ「話したり聞いたりする授業」「書く習慣や読む習慣を付ける授業」に対する肯定的な回答をしている学校の割合は少ない。また、「実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」についても肯定的な回答は全国値よりも低い。

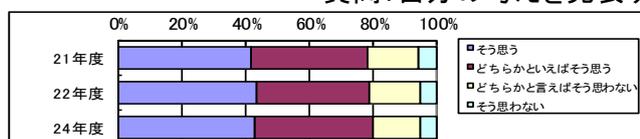
各教科・領域において、さらに、話し合いや読み書きの指導に工夫を加え、学習内容と実生活の関連を重視した指導を充実させることで、思考力・判断力・表現力等を育てていきたい。

小学校

児童生徒質問紙経年変化

質問：自分の考えを発表する機会が与えられているか

中学校

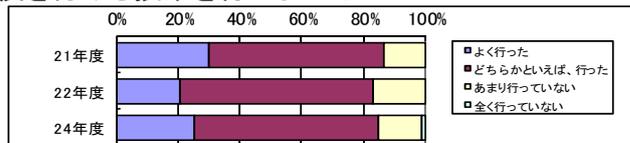
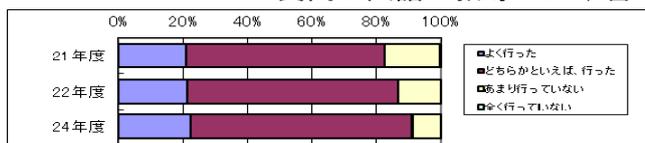


小学校

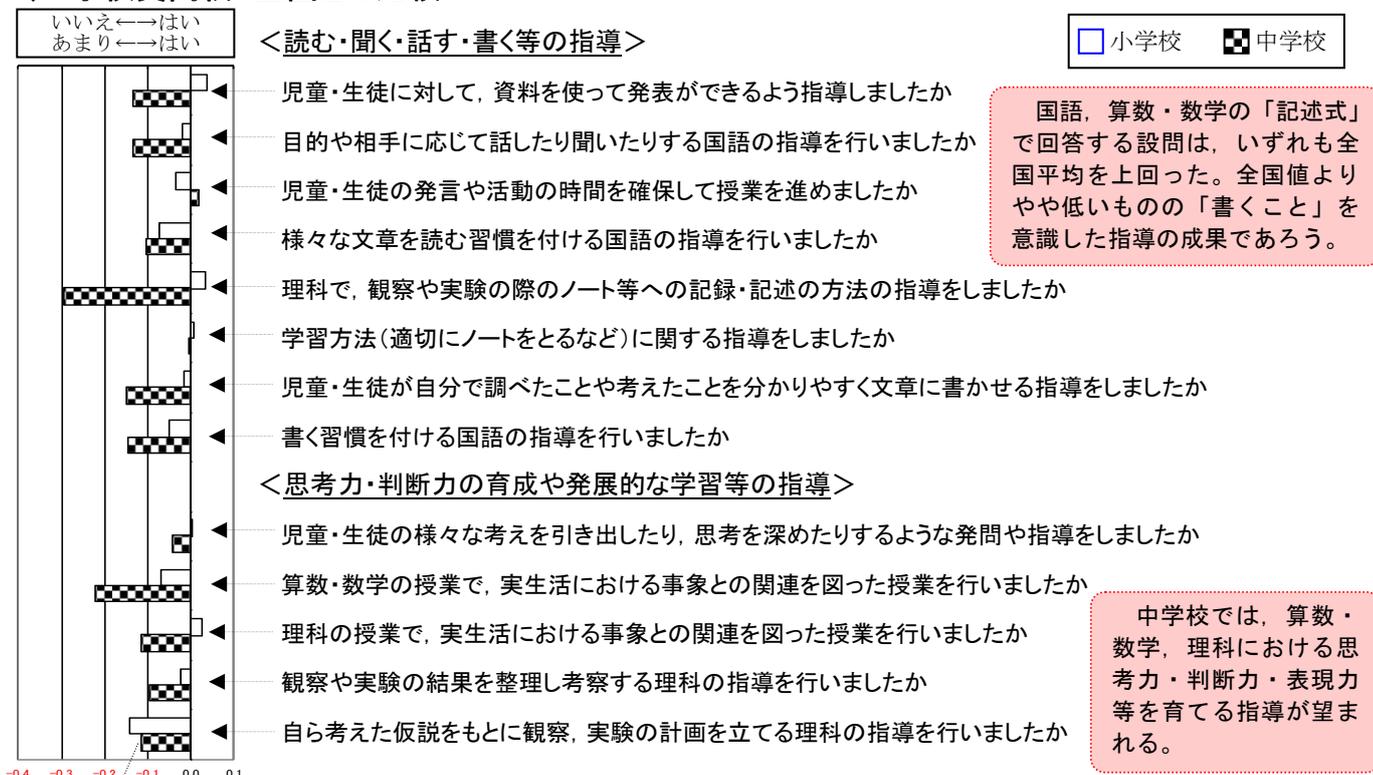
書く習慣を付ける授業の実施状況経年変化

質問：国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか

中学校



◇ 学校質問紙 全国との比較



棒グラフの値は、質問紙の選択肢 1, 2, 3, …を、それぞれに 1 点, 2 点, 3 点, …とし、それぞれの選択肢の回答の割合を乗じて、全国との差をもって表現した。(全国値=0.0)

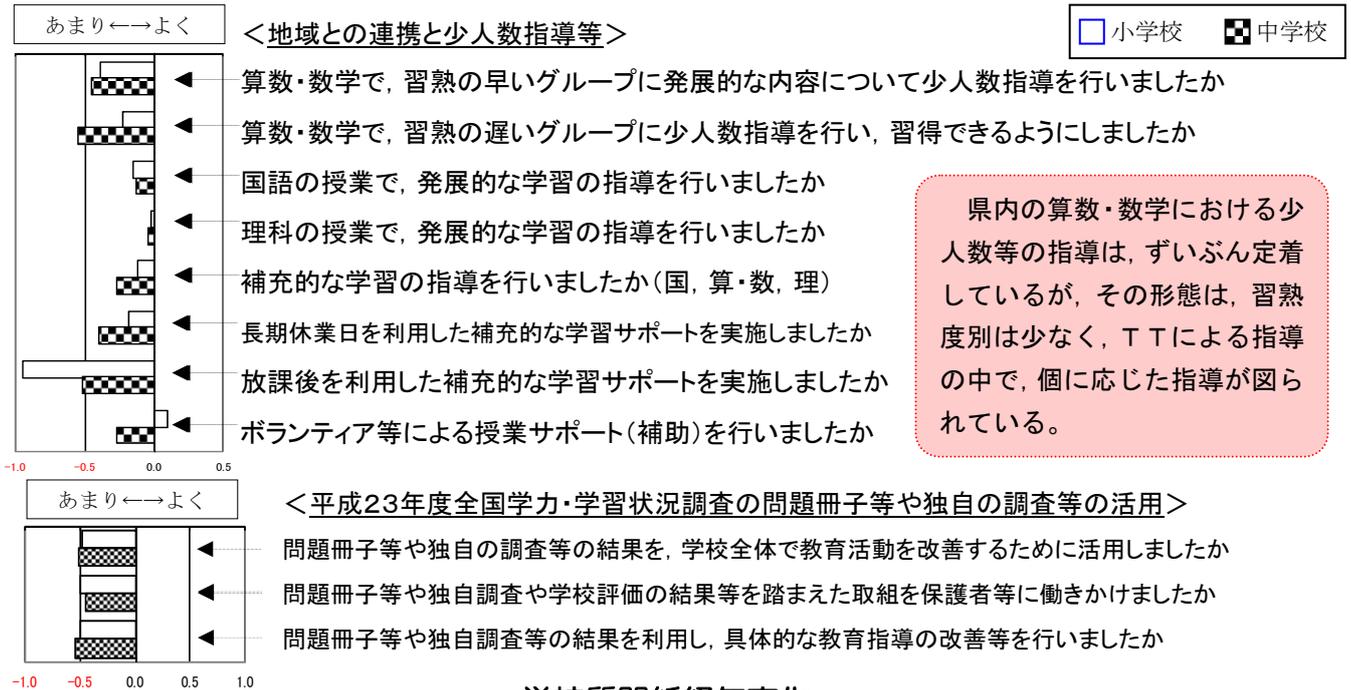
改善の指針2

個に応じたきめ細かい指導を充実させる。

「習熟度別少人数指導」「発展的な学習」「補充的な学習」に関する設問は、小・中ともに全国値を下回っている。また、全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査結果の効果的な活用状況も低い結果となった。

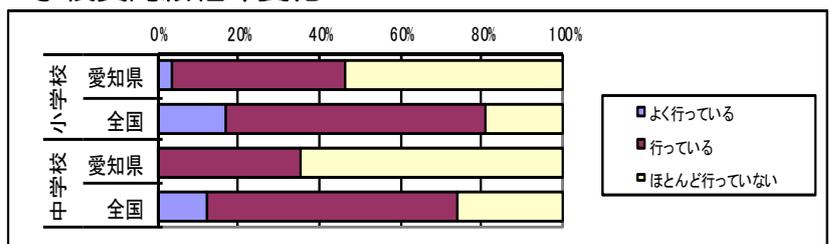
個に応じた指導の実現のためには、まず、児童生徒の学力の状況を的確に把握した上で、児童生徒の調査結果を有効に活用し、学校や地域のリソースの活用を含め、きめ細かな指導のための方法を見直す必要がある。その上で、きめ細かな指導を充実させたい。

◇ 学校質問紙 全国との比較

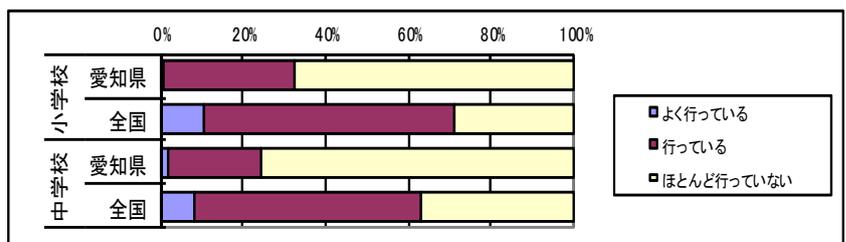


学校質問紙経年変化

質問：平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行いましたか



質問：平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自調査や学校評価の結果等を踏まえた取組を保護者等に働きかけましたか



本年度、愛知県教育委員会で行った学力調査についての検証でも、調査結果の有効な活用が課題とされた。児童生徒一人一人に応じた指導の実現のため、具体的な活用方法について研究する必要がある。

改善の指針3

学習への関心を高めるため、授業改善を推進する。

「勉強は好きですか」や「授業の内容はよく分かりますか」などの設問で、肯定的な回答をしている児童生徒が、どの教科も小学校段階から中学校段階にかけて約5～20ポイント減少している。

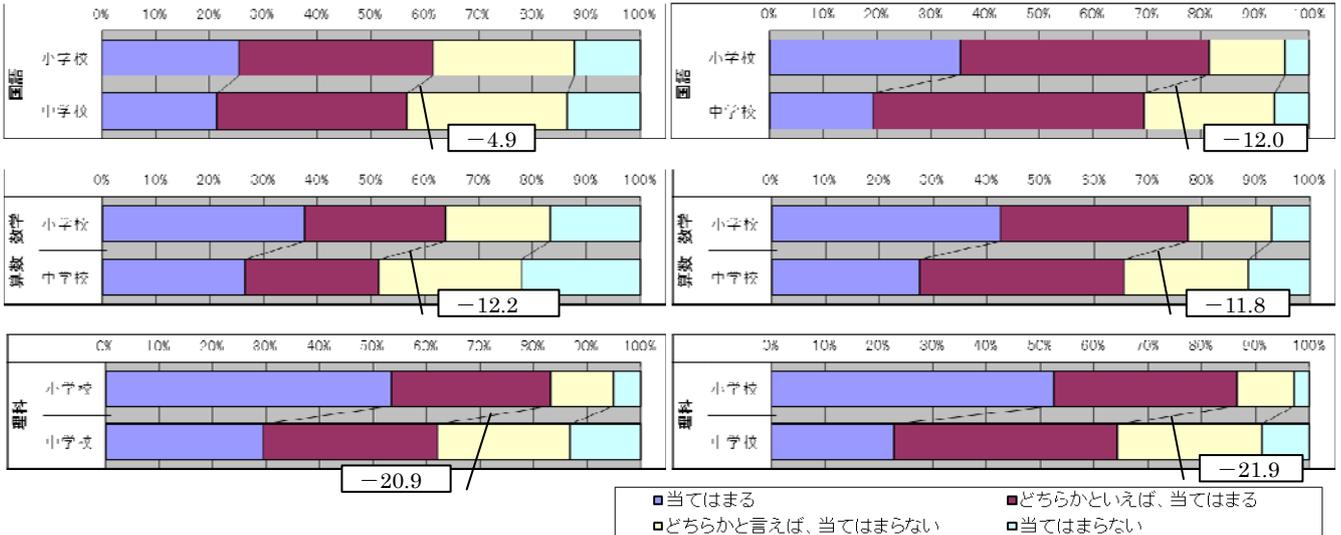
小・中学校ともに、情報機器の活用頻度が低い状況が続いており、特に中学校では、地域の施設や人材を活用した指導についても全国値を下回っている。

情報活用能力の育成を図るとともに、「地域人材」や「博物館や科学館、図書館」を活用した授業の工夫をすることで、学習への関心や意欲を高め、分かる授業、できる授業、楽しい授業を目指したい。

◇ 児童生徒質問紙 学習への意識の小・中の比較

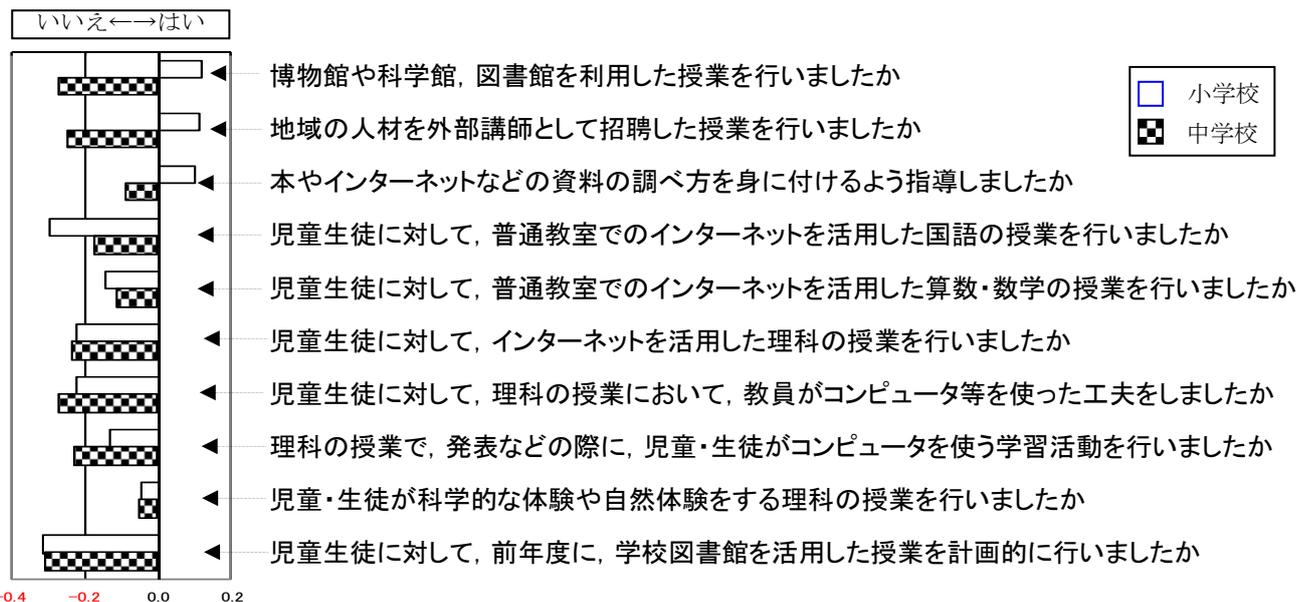
質問：教科の勉強は好きですか

質問：授業の内容はよく分かりますか



学習の難易度が上がることで、学習意欲が減少する傾向がうかがわれる。理科の「ものづくりは好きですか」等の発問では、体験的な学習を好む児童生徒が多いという結果も示されているので、授業形態の工夫により、各教科の学習をすることの楽しさや素晴らしさを学ばせる指導を心掛けたい。

◇ 学校質問紙 全国との比較



全国に比べ、小学校では、公共施設を利用したりゲストティーチャーを活用するなどの授業の工夫が盛んに行われている。インターネットや学校図書館を活用した授業は依然として少ない。

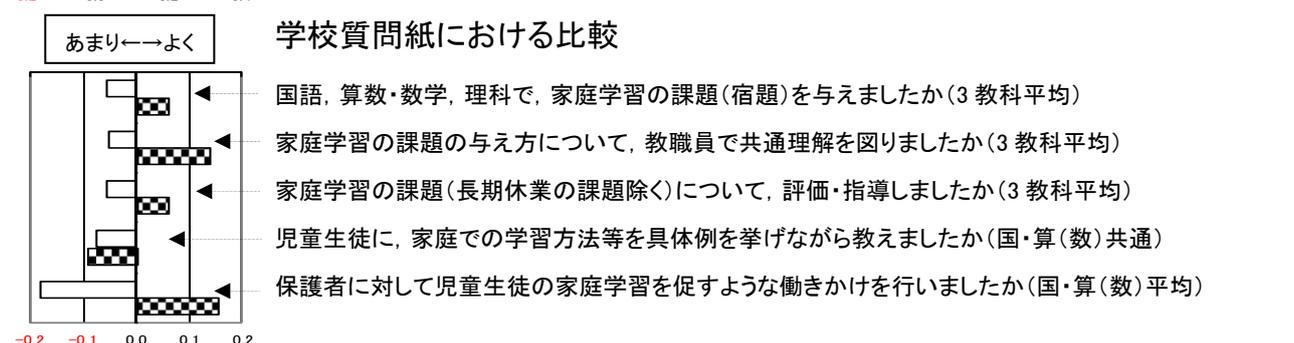
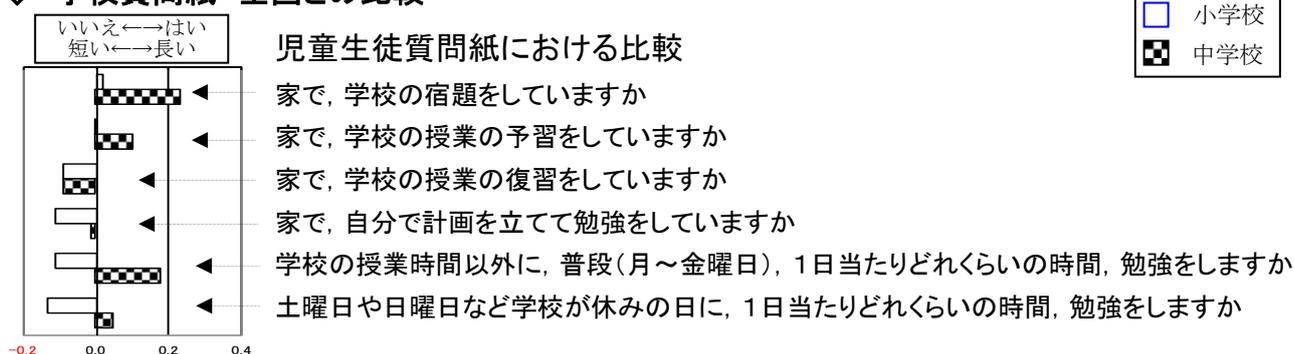
改善の指針4

家庭学習への意欲や習慣付けを促すための手立てを検討する。

全国と比べ、宿題をする児童生徒は多く、中学生の家庭学習の時間は長い。ただし、授業の予習に比べ、授業の復習や自分で計画を立てて勉強をしていると回答している児童生徒の割合は、依然として全国より低い。特に、小学校は、全国に比べ、勉強時間が短く、授業の復習、児童で計画を立てて勉強することに対する肯定的な回答の割合が低い結果となった。

保護者に対する家庭学習を促すような働き掛けも増加傾向にあるが、まだ全国には及ばない。家庭や校内の教員との連携を図ることで、家庭学習の内容や学習法を再点検し、意欲や習慣付けを促す働き掛けを継続していきたい。

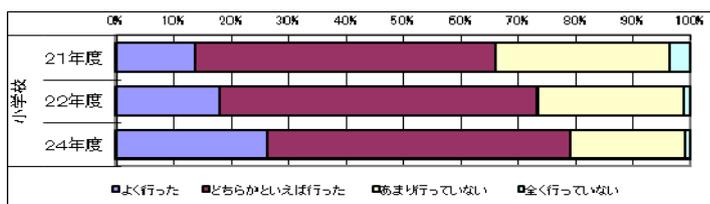
◇ 学校質問紙 全国との比較



小学校の家庭学習にかかわる調査結果の経年変化

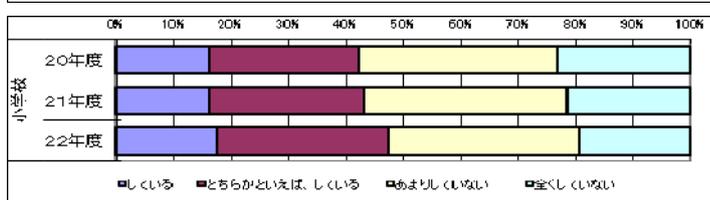
学校質問紙調査

質問：家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか



児童生徒質問紙調査

質問：家で学校の復習をしていますか



学校質問紙調査

質問：保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国・算(数)平均)



全国には及ばないものの、小学校においては、家庭学習の課題の与え方についての教職員の共通理解や家庭学習を促すような働き掛け、復習をしている児童が年々増加してきている。今後も、継続してこれらの取組が増加していくことを期待したい。

改善の指針5

読書習慣を形成するために、読書に親しむ機会を増やす。

読書に関する回答と教科に関する調査結果の相関関係を見ると、読書が好きな児童生徒ほど、平均正答率が高い。しかし、本県の児童生徒は、「読書は好きですか」における肯定的な回答の割合は、全国を下回り、依然として横ばい状態である。また、定期的に読書の時間を設けている学校の割合は減少傾向にある。

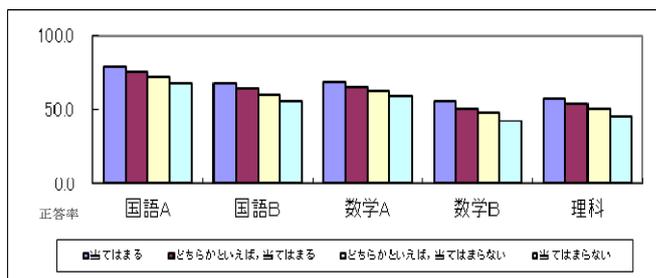
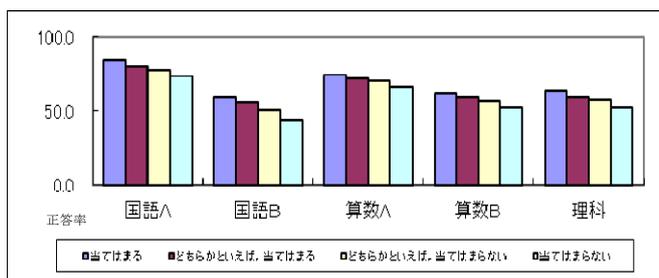
全国に比べ、司書教諭が置かれている学校が多いが、教員以外で図書館に関する業務を担当する職員は少ない。読書に親しむ機会を増やし、読書習慣の形成を図るためには、さらに読書環境の整備が必要である。

教科に関する調査結果との間に相関関係が見られる質問例

小学校

質問：児童生徒質問紙調査「読書は好きですか」

中学校



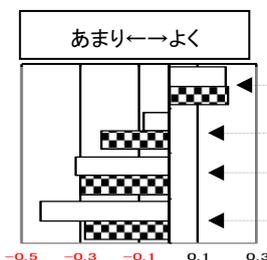
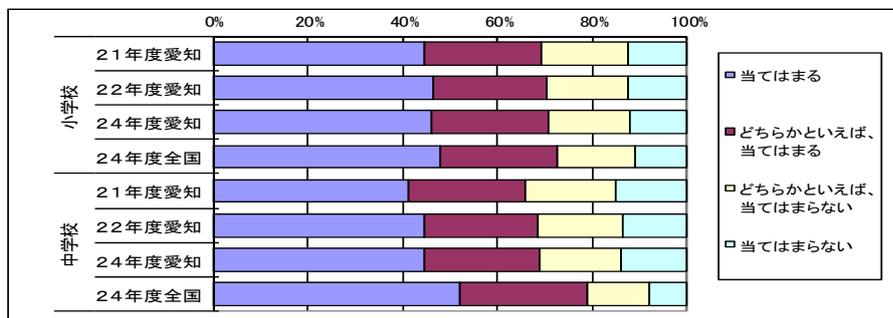
教科に関する調査結果との相関：質問紙の質問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」・・・「当てはまらない」と回答した児童生徒ごとに各教科に関する調査の平均正答率を集計した。

読書にかかわる調査結果の経年変化

児童生徒質問紙調査

質問：読書は好きですか

平成24年度に義務教育問題研究協議会で作成した「言語活動の充実を図る指導の手引」には、朝の読書やブックトーク等を通じて、読書への関心が高まった実践が掲載されているので、参考にしてみたい。

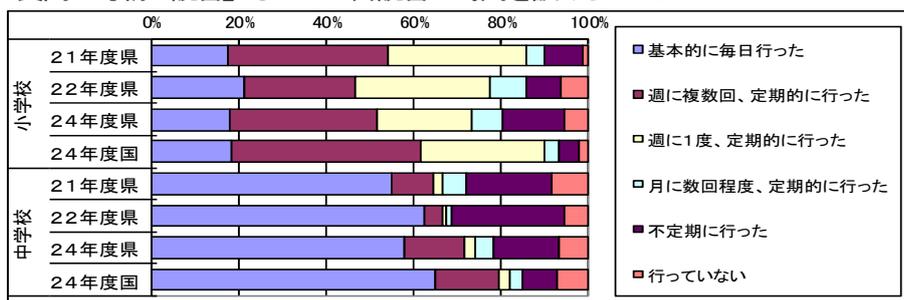


◇ 学校質問紙 全国との比較

□ 小学校
■ 中学校

◇ 学校質問紙 経年比較

質問：『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けましたか



『朝の読書』などの一斉読書を定期的実施している学校は、9割を超えている。